

# 特集 南風原 深掘り

9月に開催される予定だった運玉森とグスクヌチジの発掘成果展、残念ながらコロナの影響で12月へ延期となりました。そこで皆さんへ、発掘調査について紹介致します。

## 発掘調査ってなに？

発掘調査とは、土の中に埋まっている遺跡を掘り出し、昔の人々の生活について調査することです。道路工事や建築の際に見えられた遺跡は、考古学者が調査し、遺構と遺物の確認を行います。

- ①遺構：古墳や建物の跡、地面に彫り込まれた溝などのその場所から動かすことができないもの
- ②遺物：昔の人々が制作・使用した土器や石器など、その場所から持ち運べるもの

## 発掘調査のやりかた

①場所の確認  
 工事が行われる場所に遺跡があるのか、南風原町の遺跡分布図を使って確認します。遺跡が残っている可能性がある場所は、小規模な発掘調査を行い、遺跡の残り具合を確認していきます。南風原町史「むかし南風原は」には、遺跡の詳しい情報が載っています。本は電子図書館で借りることができます。



**豆知識** 現在南風原町には53箇所の遺跡があります。その中でも数が一番多いのは、津嘉山の14箇所です。

②発掘調査の開始  
 小規模調査の結果、遺跡があることが分かったら本格的な発掘調査を行います。発掘調査には4つの工程があります。



- ▶ **表土を削ぐ**  
 現在の地面から遺構（住居やお墓の跡など生活の痕跡がわかるもの）が確認できる地面まで、機械を使って掘っていきます。途中で、遺物（土器や石器など）が見つかることもあるので作業は慎重に行います。
- ▶ **遺構を確認する**  
 表土を削ぎ終わったら、次は手作業で土の表面を少しずつ削っていきます。遺構のある場所は周りの土と比べ、土の色や固さが異なるという特徴があります。発掘の際は、このような違いを観察しながら作業を進めていきます。
- ▶ **遺物の発見**  
 見つかった遺物はすぐに取り出さず、形や大きさ、積もっていた土の様子（土の色や固さ）をスケッチや写真撮影をして記録します。記録が全て終わったら、土から遺物を取り出します。
- ▶ **埋め戻し**  
 遺構と遺物の調査が完了すると、掘った場所を埋め戻し、元の状態に戻します。

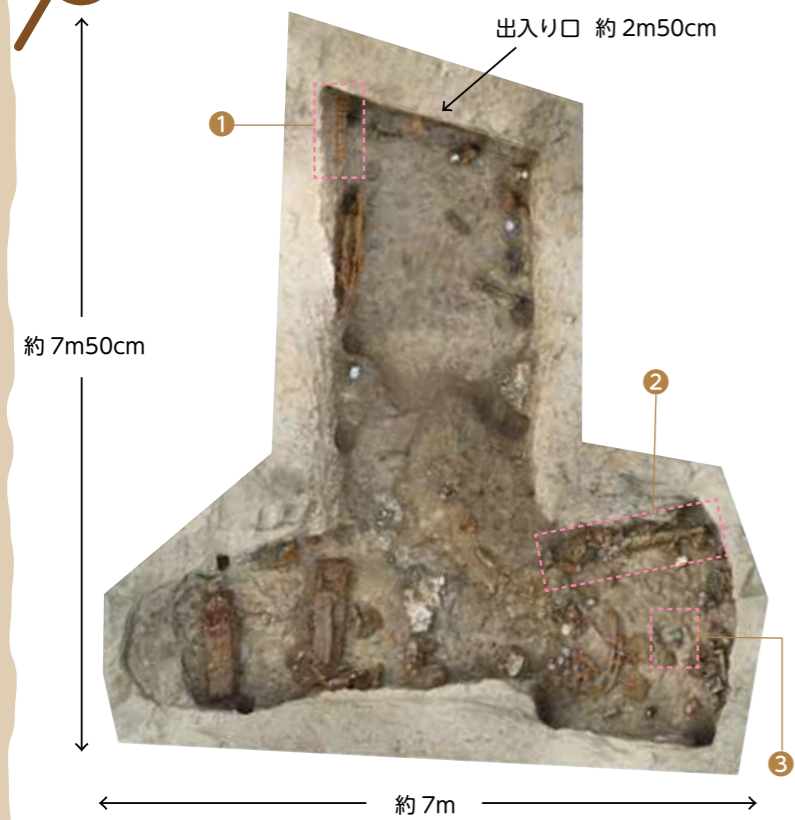
- ③洗浄  
 発掘調査が終わったら、遺物についている土や泥を洗い落とします。このとき遺物に傷がつかないようにブラシで丁寧に洗います。
- ④接合  
 発掘した遺物は、割れたり欠けたりしているものがほとんどです。これらをつなぎ合わせ、元の形を確認していきます。
- ⑤実測  
 遺物の復元が終わったら、遺物の形などを確認し、いつ頃に作られた物なのか特定し、図化作業を行います。この図を実測図といい、この図を使って報告書などを作成していきます。

**道具の紹介**  
 大きな範囲を掘るときは、クワなどを使用します。細かい作業になると、お玉やスプーンを使ったり、印づけにはアイスピックを使用します。また、掘った土が硬くなると調査が行いにくくなるため、水をまき乾燥を防ぎます。



道具 水かけの様子 印つけの様子

## 発掘調査でみつかったもの 与那覇バイパス事業に伴い発掘調査をした結果、見つかった一部を紹介します。



**与那覇グスク**  
 南風原町内でグスクと考えられている遺跡は、与那覇、津嘉山、兼城の3箇所に存在します。今回は、地域伝承との関連が考えられる石畳道が約60メートルにわたって発見されました。

**琉球王朝時代の国道**  
 琉球王朝時代、与那覇グスク周辺は宿道（首里城と各地域をむすぶ道）が通っていました。この宿道は「首里城、南風原、与那覇、知念」をつないでおり、琉球王国の神女の最高位である聞得大君が、斎場御嶽で行う就任儀式「御新下り」の際にも使用されたと言われています。

**豆知識 戦争遺跡 全国初の文化財指定**  
 沖縄陸軍病院南風原壕は、黄金森と南風原町役場近くの丘に掘られた人工壕です。米軍の艦砲射撃が始まった1945年3月下旬頃から本島南部への撤退命令が出された5月下旬まで負傷兵の手当を行う場所として使われました。南風原町は町の文化財指定基準を一部改正し、1990年6月に全国で初めて戦争遺跡を文化財に指定しました。その後一般公開も行われています。1995年3月には国の文化財指定基準が一部改正され、近代の遺跡が文化財指定の対象となりました。その後、原爆ドームが国の史跡に指定され、沖縄県の基準も一部改正されました。2020年5月1日現在、文化財として登録されている戦争遺跡は、全国300件、うち沖縄県23件です。

**与那覇旧日本軍壕**  
 出入り口に手榴弾や小銃をまとめて置いている状態で発見されました。

- ①手榴弾  
 まとまった状態で発見は珍しく、この壕からは小銃弾を中心に650発の未発砲射弾が発見されました。
- ②機関銃  
 日本軍の機関銃、発掘当時はサビによる腐敗、石や眼鏡などが付着していました。
- ③ガスマスク  
 当時、日本兵はひとり1つのガスマスクが支給されていました。

## 南風原の考古学担当



**ほくもり あきら 保久盛 陽** 好きな食べ物：うまい棒チーズ味  
 琉球大学卒業後、沖縄埋蔵文化財センターで経験を積み、南風原町の職員として勤務する保久盛さんに考古学の魅力を聞いてみました。「考古学は物から人の暮らしを探っていく学問です。記録にないものを物から探れる楽しさがあります。南風原町は激戦地だったこともあり、戦争遺跡が多いのが特徴のひとつです。学生時代は、研究の一環で熊本での発掘調査を行いました。沖縄とは異なる遺物の発見があり、とてもワクワクしたのを思い出します。南風原町で現在見つかった最古の遺物は、約3500年前の土器です。もっと古い遺物に出会えるか、毎回ドキドキしながら発掘調査を行っています」と教えてくれました。

## 展示会のお知らせ

今回ご紹介した内容の展示会を下記の日程で行います。保久盛さんによる発掘調査の文化講座もあります。詳しい日程は、町のホームページを確認いただくか文化センター（098-889-7399）までお問い合わせください。

- 12月開催 南風原町立南風原文化センター 企画ホール
- 1月開催 与那原町コミュニティセンター 2階集会室

真夏の暑さにも負けず、考古学担当は町の文化財保存のために一生懸命発掘を行っています。遺跡をとおして、昔の暮らしや平和について考えてみませんか。12月の展示会、町民のみならずの来場をお待ちしております。



赤嶺町長